

5

体験活動

第3期プラン 1-(2)-ア

1

「生きる力を育む教育の推進」

阪神・淡路大震災から得た教訓や、こころ豊かな人づくり懇話会、心の教育緊急会議からの提言等を踏まえ、命を大切にす心や思いやりの心、規範意識を養うなど、「心の教育」の充実を図るため、県民の参画と協働による兵庫型「体験教育」等の体験活動を推進する。特に、子どもたちの「自立」に向け、体験活動における試行錯誤の中で自己認識や自尊感情を高め、人間としての在り方や生き方を考えさせる。

令和4年度 重点実践事項

- 達成感や自己有用感を高めるための学習活動の工夫と事前・事後指導の充実
- 学校・家庭・地域のつながりを深める体験活動の展開

実践目標

1

幼児児童生徒の豊かな
人間性と社会性を培う

実践目標

2

体験活動での学びを
その後の生活や学習にいかす



重点! ①自立心の育成

全

幼児児童生徒の自立心を育むため、主体的・自発的な活動を通して、課題を見出し解決しようとする態度を身に付けさせたり、達成感や自己有用感を感じ取らせたりするなど、創意工夫する。

②人や社会と関わる力の育成

全

福祉体験やボランティア体験、就業体験等、人や社会と関わる活動を通して、公共の精神や協調性の涵養に努めるとともに、思いやりの心や責任感をもって積極的に行動する力を育む。

③豊かな情操の育成

全

自然や芸術文化に関わる体験活動を通して、生命尊重の精神、自然に対する畏敬の念、美しいものに感動する心等を培う。



自然学校での陶芸体験(洲本市立堺小学校)



重点! ①指導計画の作成と事前指導の充実 小中高特

児童生徒がこれまでに取り組んできた体験活動を踏まえ、児童生徒の発達段階を見通したキャリア形成が図られるよう、教科等と関連付けた指導計画を作成する。併せて、事前指導を工夫し、体験活動に向けての意欲や目的意識を高める。



重点! ②学習活動の工夫 小中高特

地域の実情に応じて、主体性を育み、感動体験のある学習活動となるよう、児童生徒が互いに協力して企画・運営する活動を取り入れたり、児童生徒の興味・関心に基づいたプログラムを編成したりするなど、創意工夫する。



重点! ③事後指導の充実 小中高特

体験を通して学んだことをその後の生活や学習にいかすため、学びの成果を発表したり、体験活動で見聞きしたことを各教科の中で取り上げたりするなど、事後指導の充実を図る。

④PDCAサイクルによる改善 小中高特

体験活動実施後のアンケート等を活用し、体験活動がその後の児童生徒の生活や学習にどうかされたかを検証し、指導の改善に努める。

⑤機会の確保 小中高特

豊かな人間性や社会性を育む観点から、体験活動の機会を確保できるよう、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めるとともに、ICTを活用するなど、実施方法を創意工夫する。

兵庫型「体験教育・キャリア教育」の系統図

小学校		中学校		高等学校	
環境体験事業 (3年) 里山、田畑、水辺などで自然とふれあう体験型環境学習 (3回以上)	自然学校推進事業 (5年) 豊かな自然の中での長期宿泊体験活動 (4泊5日以上)	青少年芸術体験事業 ~わくわくオーケストラ教室~ (1年) 兵庫芸術文化センター管弦楽団による参加型鑑賞教室	地域に学ぶ [トライやる・ウィーク] (2年) 地域や自然の中での多様な社会体験活動 (1週間)	高校生ふるさと貢献・活性化事業 ~トライやる・ワーク~ クラス単位等によるふるさと貢献活動やふるさと課題探究活動	高校生就業体験事業 ~インターンシップ推進プラン~ 事業所等における就業体験活動等
特別支援学校					
特別支援学校交流・体験チャレンジ事業(全幼児児童生徒) 地域との交流活動や自然体験活動、社会体験活動 等					

①家庭・地域等との連携

全社

家庭や地域、関係機関・団体等との一層の連携により多様な体験活動の機会を設けることができるよう、保護者や地域の人々に体験活動のねらいや内容等について理解を求める。



②地域とのつながりの深化

全社

地域とのつながりを深め、感謝の心やふるさとを愛する心を育てるため、文化行事や伝統行事、ボランティア活動等に参加するなど、地域の人々と連携する。

③安全を確保する体制の整備

全社

特別な支援を必要とする子どもへの配慮を含め、全ての幼児児童生徒の健康保持や安全確保をするため、保護者や地域の人々に協力を求めるとともに、医療・福祉・警察等関係機関との連携を図る。

自然学校

○自然学校充実に向けた4つの視点

- 1 自然学校のねらいを達成するために何が必要かを視点としたプログラムデザイン
- 2 自然学校の基本理念を踏まえ、ゆとりある時間の中で自然と豊かに触れ合う活動の充実
- 3 キャリア教育の視点で捉え直し、児童の基礎的・汎用的能力の育成につなげる取組の充実
- 4 児童の成長を積極的に認め、自然学校の成果や学びをその後の学習や生活にいかす

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」

○事前・事後指導の充実

【事前指導】

- ・活動に向けての意欲を高め、目的意識を明らかにするとともに、自分の在り方生き方について考えさせる。
- ・自身の希望や動機にとどまらず、活動場所の決定に伴う責任を自覚し、責任ある行動がとれるよう主体性を高めていく。

【事後指導】

- ・体験を振り返り、何を感じ、何を学んだかといった自身の活動の意味を考えさせる。
- ・体験を通して実感した社会に関わることの大切さ、厳しさ、楽しさから、自分の進路や生き方について考えさせるなど、生徒の意識を高めていく。

○「トライやる・ウィーク」を一層充実させる視点

- 1 原点をふまえた活動の深化
- 2 事前・事後指導の充実
- 3 生徒と地域とのつながりの深化
- 4 教育支援システムの活性化による地域コミュニティづくりの推進
- 5 行政による支援の継続及び充実

「トライやる・ウィーク」評価検証委員会から

関係資料

※関係資料一覧より一部抜粋
※一覧はP67のQRコードから閲覧可

自然学校活動プログラム指導資料

(H30 県教委)

地域に活かす「トライやる」アクション

「トライやる・ウィーク」の成果を一過性のものとせず、生徒が地域のよさやふるさとの恵みに触れることができるよう、土・日曜日や長期休業中等を利用して、地域行事の一部を担ったり、新たな行事を企画し主体的に運営したりするなどの実践的な取組が行われています。

《「トライやる」アクションの内容例》

- 体験活動場所での継続した活動
例) 幼稚園・保育園でのトイレ掃除、園庭草抜き、清掃活動
商業施設でのオータムフェスタへの参加、清掃活動
老人ホーム施設訪問やスポーツ交流 等
- 地域の夏祭り、運動会等の企画と参加
- 地域伝統行事への参加及び運営補助
例) 地蔵盆、しめ縄づくり、市民マラソン大会 等

高校生ふるさと貢献・活性化事業
～トライやる・ワーク～

○全体計画作成

- ・特別活動、教科・科目及び総合的な探究の時間等に位置付け、3年間を見通した全体計画を作成する。

○計画、立案

- ・学校の特色等に応じて活動テーマを設定する。
- ・生徒全員が在籍中に、少なくとも1回は、主体的に参加できるよう配慮する。
- ・活動に関わった生徒が活動の成果を発表したり、表現したりする場を設ける。

高校生就業体験事業
～インターンシップ推進プラン～

○全体計画の作成

- ・就職希望者は全員、それ以外の生徒も一人でも多くがインターンシップを体験できるようにする。

○計画、立案

- ・事業所におけるインターンシップおよび啓発的体験活動(進路指導講演会、職場見学、職業人インタビュー、アカデミック・インターンシップ等)に生徒全員が在学中に少なくとも1回は参加できるように配慮する。なお、就職希望者は必ず事業所におけるインターンシップを実施する。

心のバリアフリー推進事業

公立特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の自立をめざし、家庭・地域社会等との連携のもと、地域との交流活動や自然体験活動、社会体験活動を支援します。

○交流活動

- 例) 近隣の学校園との交流及び共同学習、スポーツ等の地域交流活動、ボランティア活動 等

○体験活動

- 例) キャンプ、宿泊学習、美術館等の施設見学、工場等の見学 等

(留意点)

活動にあたっては、安全確保、健康や衛生等の管理に十分配慮し、事前に幼児児童生徒の実態を踏まえた理解の促進及び学習意欲の喚起を図るとともに、事後は、振り返りや発表の機会を設けるなど活動の充実を行うこと。